ISSN 1880-8395

東京学芸大学附属図書館報

ライぶらり

TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY LIBRARY NEWS

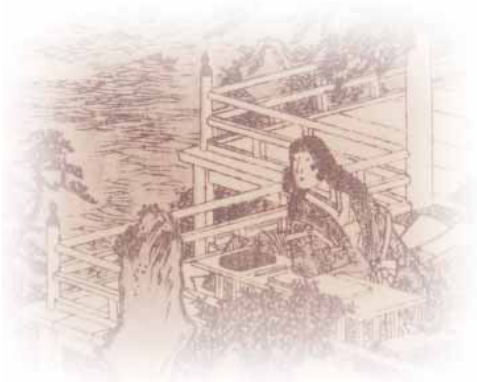
［特集］

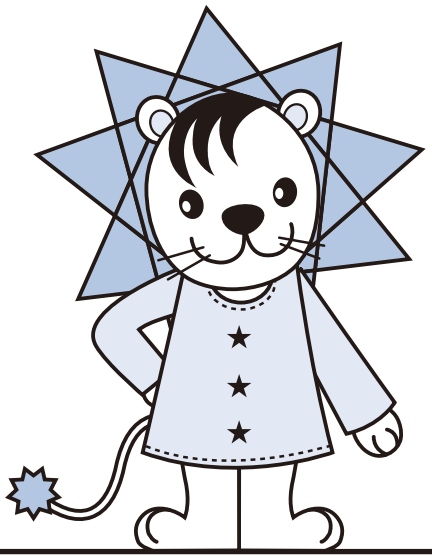
近世庶民教育資料から見た源氏物語 ― 双六・往来物を中心に ―

源氏物語千年紀記念　附属図書館企画展示　開催報告

【会期】平成20年10月31日（金）～11月３日（月・祝）
【会場】東京学芸大学附属図書館１階閲覧室
【監修・解説】小町谷照彦　本学名誉教授

東京学芸大学附属図書館には、近世庶民教育資料として、豊かな双六や往来物(注1)のコレクションがあります。いずれも美しく多彩な絵と巧みな学びの趣向が盛り込まれた魅力ある資料です。より多くの方にこうした資料に触れていただく機会として、毎年企画展示を開催していますが、今年は「源氏物語千年紀」を記念し、小町谷照彦名誉教授の協力を得、双六や往来物に登場する『源氏物語』の様々な姿をご紹介いたしました。





注1：平安時代から明治初頭にかけてつくられた主に読み書きを学ぶための手本書

［特集］近世庶民教育資料から見た源氏物語
―双六・往来物を中心に―

◆源氏物語千年紀記念 附属図書館企画展示 開催報告　1
◆展示内容一部紹介（小町谷照彦）　2～4

Vol.37 [No.4] 2009.1

展示内容一部紹介

監修・解説：小町谷 照彦

庶民教育資料としての『源氏物語』

絵巻・画帖・色紙などによって絵画を通して享受されてきた『源氏物語』は、近世になって、絵入版本、また『十帖源氏』『おさな源氏』『源氏鬚鏡』『源氏小鏡』などのような絵入梗概書によって、一段と享受層も拡大されました。さらに、近世後期になると、遊戯具の双六、教養書・実用書としての往来物や百人一首などの庶民教育資料を通して、『源氏物語』の啓蒙化がより多彩多様になってまいります。

今回の展示では、幾つかの項目に分けて、『源氏物語』の享受の一端を、具体的な資料に即して紹介するように心がけました。

Ⅰ.『源氏物語』の作者　紫式部

紫式部絵は、石山寺にまつわる伝説、物語の執筆を拝命した紫式部が石山寺に参籠し、琵琶湖に映る中秋の名月を眺め、その光景から霊感を得て、須磨巻の「今宵は十五夜なりけり」から執筆したという伝承に基づく絵柄が中心を占めます。中には、紫式部の画像ばかりでなく、伝説の概略を付したものもあります。石山寺から琵琶湖を眺めやる紫式部の姿は、中国の瀟湘八景に倣った「近江八景」と結び付いて、その光景を取り入れて描かれたりもします。

『女用文章糸車』河内屋茂兵衛版　刊年不明

『小倉色紙和歌百人一首』法橋中和画
明治20（1887）年

Ⅱ. 源氏物語香図引歌と場面絵・趣意絵

『源氏物語』関連の庶民資料の代表的なものに、源氏物語香図引歌（源氏五十四帖引歌香図）などと呼ばれるものがあります。それらは原則として、『源氏物語』の各巻について、「引歌」といわれる代表的な場面や巻名にちなむ和歌を一首ずつ取り出して記し、それに関連する絵を添え、源氏香文様を付したものです。源氏香文様は、香道の源氏香と呼ばれる組香に基づく文様です。引歌に添えられた絵の図様は、場面絵と趣意絵と大きく二つに分けられます。場面絵は、物語の場面を具体的に描いたものです。趣意絵は、巻名や巻の内容にちなむ図様の絵が添えられているもので、たとえば桐壺巻ならば、桐の木や枝、桐壺の御殿などが描かれています。

→ 各面に巻名、引歌、場面絵が描かれる。

『女大学宝箱』柏原屋清右衛門・須原屋茂兵衛版
文政12（1829）年

『女訓玉文庫』吉田屋文三郎版
安政5（1858）年

← 頭書部分に巻名、引歌、趣意絵が描かれる。

ISSN 1880-8395

Ⅲ.『源氏物語』の概要

『女源氏教訓鑑』は、近世後期以後に一般化した女訓書・実用百科書的な面も見られますが、書名からうかがわれますように、『源氏物語』を中心に据えた古典教養書的な性格が濃厚で、巻頭と巻末に概要的な内容の紹介を置き、さらに各巻の源氏物語香図引歌に加えて、巻名の由来、語釈、梗概、引歌の解釈などが詳細に解説されている本格的な入門書です。『女要珠文庫』は、上段にやはり実用書的な知識を収め、下段に「湖月女文章」として、最初に「源氏香図」を示し、各巻の要所の説明文を仮名手本風の書体で記し、引歌を揚げ、作中人物の絵を添えたもので、これも優れた『源氏物語』の案内書と言えるでしょう。

『女源氏教訓鑑』大野木市兵衛・須原屋茂兵衛版
元文元（1736）年

『女要珠文庫』寺田與右衛門版
享保6（1721）年跋

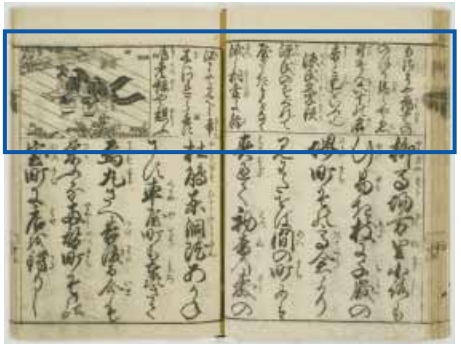
Ⅳ.『源氏物語』享受の諸相

「源氏貝和歌」（『女庭訓御所文庫』）は、「源氏香文様」と巻にちなむ趣意絵を描いた貝覆(貝合)様の「源氏貝」の図を掲げ、それに即した和歌を添えたものです。

「源氏目録文字鎖」（『女用続文章』）は、一連の文章の中にさまざまな知識を盛り込んだ「続き文章」の一つで、「文字鎖」と呼ばれるのは、尻取り風の七五調の長歌の形で、『源氏物語』の巻名を詠み入れているからです。

「源氏八景」（『女用文艶詞』）は、近江八景などに倣って、『源氏物語』の場面を八景に見立て、歌と絵を示したもので、「帚木夜雨」「須磨秋月」「少女初雁」「夕霧夕照」「明石晩鐘」「松風帰帆」「朝顔暮雪」「玉鬘晴嵐」となっています。

『女庭訓御所文庫』勝村治右衛門・敦賀屋九兵衛・
須原屋茂兵衛版　慶應2（1866）年 三刻



←頭書部分に源氏目録文字鎖が挿絵入りで示されている。

『女用続文章』菊屋安兵衛・伏見屋半三郎版
文政4（1821）年

←右側の丁に「夕霧夕照」左側の丁に「明石晩鐘」が示されている。

『女用文艶詞』出版者不明　刊年不明

V．遊戯具

『源氏かるた絵合』は、基本的には『源氏物語』の巻名や趣意絵を記した絵図の各枠に、参加した競技者に配られたかるたを、桐壺巻から相当する巻に順次並べてゆき、早く手札が無くなった者を勝ちとする遊戯だったと思われます。元来はそれぞれの「かるた絵合」に、巻名などを記したかるた（手札）が添えられていました。ばらばらになりやすいかるたは散逸しがちで、相応の優れた絵師の手になる見た目にも美しい絵図だけが多く残されているようです。

「源氏かるた絵合仕様」に記されている遊戯法によれば、競技に先立って配られたかるたの中から一〇枚ばかりをあらかじめ出して置いておき、桐壺巻のかるたを持った人から競技を始めて、自分の手元のかるたにない適当な巻名を呼び出し、その巻名のかるたを持っている人がそれに応じてかるたを出し、さらに巻名が続くものがあれば何枚も出すことができ、もしなければ別な巻名を呼び出すというように進めていくとあります。

『源氏かるた絵合』洗心斎綾岡画（本紙）・楊洲周延画（袋）
前田喜兵衛版　明治21（1888）年

袋（表）浮舟巻絵図

袋（裏）源氏かるた絵合仕様

源氏かるた絵合仕様

人数に定りなし三人以上以上幾人にても五拾四枚の札を同数に分け相手にみせぬように持なり〇始に桐壺より花の宴までの札八枚と若菜上下の札弐枚とを持たる人は初に並べ置べし〇始め札を分けあたへたる時札のはした出たる時は桐壺より若菜まで十枚の札を持たる人に授くべし〇扨桐壺の札を持たる人より呼出すなり呼名は自分の手になき名を何なりとも心任せに呼なり其呼を待て呼たる札を持たる人出す其続の札あれば何枚にても出すべし其人思ひ付たる名を呼なり右の如く順にして先に札を手掃ひたる人勝とす〇札を呼とき自分の手に持たる名を呼とき恥とす

本展示の詳しい情報や過去に開催された展示会については、附属図書館ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

「附属図書館 所蔵資料展・講演会」
https://library.u-gakugei.ac.jp/lbhome/tenjikai/tenjikai.html

［編集発行］東京学芸大学附属図書館
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1　TEL 042-329-7223 / FAX 042-329-7226
●URL http://library.u-gakugei.ac.jp/　●携帯版URL http://library.u-gakugei.ac.jp/i/

［表紙・キャラクターデザイン］美術・書道講座　正木賢一